

日交研シリーズ A-669

平成 27 年度研究プロジェクト

「東京都市圏における物資流動のビッグデータからみた道路整備効果の分析」

刊行：2017 年 2 月

東京都市圏における物資流動のビッグデータからみた道路整備効果の分析
The Analysis on Road Maintenance Effect Using the BIG DATA of Freight Vehicles
Movements in Greater Tokyo Urban Area

主査：小早川 悟（日本大学理工学部教授）

Satoru KOBAYAKAWA

要 旨

本プロジェクトでは、まず、貨物車のプローブデータを活用した既存研究の整理を行った後、東京都市圏物資流動調査の際に得られた小型貨物車と中型貨物車のプローブデータの分析方法に関する議論を実施した。通常は、プローブデータを活用するためにはデジタル道路地図に位置情報データをプロットしていく作業が必要であるが、これとは別の簡易的な方法として貨物車のプローブデータをトリップ毎に分割して分析を進めていくことの可能性についての検討を行った。その後、中型および小型貨物車のプローブデータをトリップ毎に分割した OD（起終点）データを作成し、中型および小型貨物車の発生集中地区の分析を行った。その結果、中型車は埼玉県や神奈川県などの圏央道周辺の郊外部に多くの発着地があるのに対し、小型車は都心部に発着地が集中していることが判明した。また、OD 間の直線距離と移動時間を見ると、中型貨物車と小型貨物車で OD 間の直線距離は小型車の方が短いにも関わらず、移動時間が長くかかっていた。今回は、中型および小型の貨物車のプローブデータを OD データとすることで、東京都市圏における貨物車の動きを明らかにしてきたが、さらなる分析方法の検討が必要であり、そのための課題も多く存在することがわかった。

キーワード：貨物車、プローブデータ、東京都市圏物資流動調査

Keywords: Freight Vehicles, Probe Data, Freight Movement Survey in Greater Tokyo Urban Area